



さざなみ

腎臓内科のご紹介

腎臓内科副部長 秋田 渉

平成28年4月より腎臓内科常勤医として同愛記念病院に赴任してきました秋田渉と申します。

当院では今まで腎臓内科の常勤医師が不在でしたが、今後当院でも腎疾患に対しての入院加療ができるように、赴任以来尽力している段階です。

腎臓内科とはあまり皆様にはなじみがないかもしれませんが、当科の対象患者さんですが、

- 1 慢性腎臓病(CKD)の管理
- 2 ネフローゼ症候群(尿に大量の蛋白尿が漏れてしまう病態)・糸球体腎炎(蛋白尿・血尿を呈して放置すると徐々に腎機能が低下してしまう病態)などの診断・治療
- 3 急性腎障害(急激に腎機能が低下し、数時間〜数日の単位で腎機能が廃絶してしまう病態)・電解質異常に対しての加療
- 4 透析患者の透析管理・全身管理

というところを主な対象にしています。

慢性腎臓病(CKD)とは定義で言うと「慢性的に(3カ月以上)腎機能障害、尿所見異常を呈している状態」のことを言います。腎機能障害を見る指標としては血液検査でクレアチニン(Cre)、ま

たそこから概算されるeGFR(推定糸球体濾過量)という数値を見て判断します。

現在日本では約30万人の方が血液透析を受けています。その背景に1300万人程度のCKD患者が潜在していると推測されており、想像以上に対象の広い疾患と考えられています。CKDの原疾患としては、糖尿病と高血圧で半数を超えると考えられており、新たな国民病とも言われています。私たちの仕事の第一目標は、①



新透析室

③の患者さんに対して適切な診断、治療方針を策定し、可能な限り腎機能障害の進行を遅らせること、また少しでも多くの患者さんが透析導入となること、がないうにすることが、そのため

に必要なのは食事制限、血圧管理、糖尿病があれば血糖管理というように、医師が特別な治療をするというのではなく、患者さんにとっての疾患について理解していただき、患者様個別に適宜生活指導をしていくということが治療の主体です。CKDの治療の肝心な点は正しく病氣への知識を持つことです。何か分からないことや疑問な点などがありましたら、遠慮なくお尋ねください。

それでも腎機能障害が進行し、自分の腎臓の働きだけでは生命活動を維持できなくなった場合、透析療法が必要となります。その際の透析導入からその後の通院透析までの道筋を立てるのも当科の仕事です。透析療法については、血液透析・腹膜透析の2種類があり、さらに腎移植という治療法も挙げられます。導入の際には各種療法に関して説明させていただき、個々の生活に合った治療法を選択していければと考えています。

透析は始めればそれですべてが完結するわけではありません。透析患者さんは、感染症や心血管障害など様々な疾患を併発しやすく、専門治療のため入院が必要となることが多いです。

8月より6床の透析室が新設され、入院対応可能な透析患者数が大幅に拡充されました。今後、透

析患者さんの各種合併症に対しても積極的に入院加療の対応をしていく予定です。

簡単に腎臓内科の業務内容などを説明させていただきました。

- 健康診断で尿の異常、腎機能の異常を指摘された
- 足・顔にむくみが出てきた
- 尿の泡立ちが長時間消えない、尿の色が褐色に見えた

など、また現在かかりつけの先生から腎臓のことでも何らかの指摘があった時など、御不安なことがありましたら遠慮なく当科を受診ください。

まだ赴任して日が浅い当科ですが、城東地区を中心に皆様のお役に立てるように全力で頑張っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。



腎臓内科スタッフ一同

小児アレルギーセンターのご紹介

小児アレルギーセンター長
増田 敬



平成28年4月1日より小児アレルギーセンターが設立されました。同愛記念病院は戦後米軍病院として運営されていましたが、昭和30年に米軍から

返還されました。再開時に日本のアレルギーのセンターとして位置づけられ、アレルギー呼吸器内科とともに小児科は多くの喘息をはじめとするアレルギー疾患患者さんの診療を行ってきました。

かつては日本小児アレルギー学会の本部があり、「同愛の治療が日本のスタンダード」といわれ、満川元行先生、馬場實先生のもと、名実ともに日本の小児アレルギー診療の中心として運営されてきました。現在も小児の喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーの診療実績は非常に多く、その経験と新しい科学的なエビデンスに基づいた診療を行っています。このような背景があり、「小児アレルギーセンター」を設置し、総合的にアレルギー疾患を診療していくことになりました。

年齢とともに異なるアレルギー疾患が生じてくることを「アレルギーマーチ」と呼び世界中で認知されています。このアレルギーマーチという現象に気づき、名付けたのが馬場實先生です。このアレルギーマーチという概念に基づいて、子どものアレルギー疾患を一連の流れの中でとらえた診療を行っています。関連する診療科や診療所の先生との連携も密にしています。小児科医は病気を診るのではなく、人間の身体、心、発達など総合的に診ていくことが大切であるという先人の精神を受け継いでいきます。

さらに診療所、行政、学校、幼稚園、保育園と連携し、疾患の啓発、公衆衛生活動などを通じて地域貢献に参加しています。

診療の特色・内容

また、小児アレルギー疾患として、食物アレルギー、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎などすべてのアレルギー疾患が対象疾患となります。

私たちが目指す1番目として適切な診断による標準的な治療です。2番目は患児、保護者の皆様に十分な時間を取り説明をし、疑問を聞くことです。それが不安を少なくして積極的な治療の取り組みにつながると考えています。アレルギー疾患は経過が長く、同時に様々な病気を同時に持つことも少なくありません。このため長期間にわたり通院する必要もあり、患児、保護者の皆様と信頼関係を築けるよう努力いたします。

食物アレルギーでは食物経口負荷試験を年間1000件以上実施していますが、東京では最も数をこなしている病院の1つです。気管支喘息では肺機能検査、気道抵抗の検査、呼気中一酸化窒素の濃度測定などで客観的な評価を行っています。ガイドラインに基づく標準治療を主体として、1人1人をきちんと診た上での治療を選択します。主に高校生を対象とした思春期喘息外来も行っています。アトピー性皮膚炎は病状や原因をしっかりと評価した上で、スキンケア、軟膏処置などガイドラインや最新の知見に基づいた標準的な方法をお話しさせていただき、治療を進めていきます。アレルギー性鼻炎ですが、悪化すると慢性咳嗽や副鼻腔炎、中耳炎などが起きてくることも珍しくありません。たかが鼻水、鼻づまりと思わずに治療することをお勧めします。

専門医教育施設として

当科は、日本アレルギー学会認定指導医が1名、認定専門医が1名在職しており、日本アレルギー学会認定アレルギー専門医教育研修施設となっています。学会活動や臨床研究も積極的に行い、新たな治療法の開発にも関わっています。

同愛記念病院の理念

同愛記念病院は地域の要請をふまえ地区の基幹病院として親切で適切な医療を提供し社会に貢献します。

〈診療科目のご案内〉

循環器内科、血液内科、糖尿病・代謝内科、腎臓内科、消化器内科、神経内科、一般内科、神経科・精神科、アレルギー呼吸器科、小児科、外科、整形外科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科

〈病床数〉403床

■交通案内

JR総武線 両国駅(西口)から徒歩7分
都営地下鉄浅草線 蔵前駅から徒歩10分
都営地下鉄大江戸線 両国駅から徒歩5分
●都営バス (錦糸町～大塚駅)石原1丁目停留所から徒歩3分

当院では外来予約制です。

初診/(月～金)午前8時30分～正午(紹介状のある方は午後3時)
(土) 午前8時30分～午前11時
再診/ご予約のない方:自動再来受付機にて午前8時～正午
次回のご予約は診察後にお申し込みください。
休診日/日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)



社会福祉法人 同愛記念病院財団

同愛記念病院

〒130-8587 東京都墨田区横網2丁目1番11号
TEL. 03-3625-6381(代) FAX. 03-5608-3211